公益社団法人　日本介護福祉士会
一般社団法人
山形県介護福祉士会広報

第 47 号　2026.3
発行
山形県介護福祉士会広報委員会
事務局
山形県総合社会福祉センター内

令和 8 年度研修事業(案)計画されています！

・基本研修
・ファーストステップ研修
・介護職種の技能実習指導者講習
・介護技術講習
・外国人介護人材のための介護福祉士国家資格取得支援講座
・デジタル中核人材養成研修
・実務者研修教員講習
・外国人材の職場での実情と対応・好事例の紹介(仮)

COMING SOON

令和 8 年度通常総会
令和8年5月17 日(日)13:00
天童市総合福祉センター視聴覚室
総会時研修:調整中
※総会案内はがきに出欠をご記入のうえ必ず投函をお願いします

詳細はホームページをご確認ください
山形県介護福祉士会

連載皆で考えよう倫理　「職業倫理」について
～なにを基準に話を聴いていますか？～

スタッフから、『利用者の排泄介助に時間を要するようになったので、排泄台車を活用して効率よく利用者のケアを行えないか。』といった相談を受けたら、あなたはこのスタッフにどのように返答するでしょうか。少し考えてみてください。

「日本介護福祉士会倫理綱領や行動規範(以下、「倫理綱領等」という。)を基準に考える」ということもあるでしょう。しかし、倫理綱領等を相手に説明しても理解していただけない時や、相談してきたスタッフが利己的な考えでは、話し合いが平行線のままになってしまう可能性もあると思います。では、どうしたらよいでしょうか・・・。

そもそも何を基準に話をしているのかを確認してみてください。殆どの会話は自分の意識や考え方を基準に話をしているのではないでしょうか。つまり、自分と相手が違った基準で話を進めることになるため理解が深まらず、逆に溝を深めてしまうのではないでしょうか。

そのため、相手の話に共感する態度と、話し合いを行うための基準を決めることが必要になります。この話の基準になるのが倫理綱領等です。倫理綱領等を通して話を進めることができれば、専門職として利用者の尊厳と自立を守り、質の高い支援を考えることができると思います。

倫理綱領そのものはとても大切ですが、伝え方ひとつで相手を傷つけてしまうことがある、という点を理解しておく必要があります。だからこそ、自分がどのような基準で相手の話を聴いているのかを常に確認することが、プロとして求められる姿勢だと考えます。



今回はスタッフからの相談を例にして「職業倫理」を、
① 自分と相手が違った基準で話を進めていることに気づく。
② 両者が同じ基準で考えるための倫理綱領等の活用。　についてご提案させていただきました。(安達秀則)

外国人介護人材のための介護福祉士国家資格取得支援講座 受講者からの感想が届きました！

令和8年度も実施予定

介護福祉士試験のための勉強会に参加しました。勉強会では試験に出やすいポイントや、問題の解き方も分かりやすく教えていただきとても勉強になりました。

ひとりで勉強するよりも理解が深まり、モチベーションも上がりました。

今回学んだことを活かして、試験合格に向けてこれからもがんばりたいと思います。先生方には丁寧に教えていただき、本当に感謝しています。ありがとうございました。(プンプンピュー)

外国人向けの介護福祉士受験の勉強をさせて頂いた事で、少しでも自信が出たと思います。一人で勉強すると何から何まで勉強すれば良いのか不安が大きかったので、すごく助かりました。本に書かれている事が分かりやすくて絵もあってイメージしやすいと思います。先生たちもポイントを教えてくれるのでとても良かったです。

私みたいに合格をしたい他の外国人も、このクラスに参加できると良い経験になると思いますのでよろしくお願いします。(ナバロ智有美)

事務局:山形市小白川町 2-3-31　TEL 023-687-1516　FAX 023-615-6521
メールアドレス yaccw@vega.ocn.ne.jp　ホームページ http://kaigo-yamagata.jimdo.com/

寄稿リレー

介護福祉士のみなさんに期待すること

社会福祉法人山形県身体障害者福祉協会　常務理事
（兼）山形県リハビリセンター総括施設長　黒沼祐蔵

山形県身体障害者福祉協会は、障がいのある当事者による団体として、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目指し、障害者の社会参加を促進する事業や活動に取り組んでおります。

当協会では、重度、中度、軽度の障害者が生活する支援施設での作業活動や、生活介護事業における生活訓練など、多様なサービスを展開しています。これらの現場では、介護福祉士の皆様の力が大きな支えとなっており、専門的な知識と技術、そして何より人としての温かい心が、障害者の自立や社会参加を可能にしています。

介護福祉士は、単に身体的な介助を行うだけでなく、利用者一人ひとりの生活や価値観に寄り添い、その人らしい生き方を支える存在です。たとえば、作業活動を通して自信や生きがいを取り戻す利用者、生活訓練によってできることが増え、笑顔が増える利用者。その背景には、日々の丁寧な支援が欠かせません。

これからの介護福祉士に特に期待したいのは、「共に生きる」という視点を大切にした支援です。障害者を支えるのではなく、対等な存在として、共に生活を築くという意識を持つことが、利用者の尊厳を守る支援につながります。また、地域との連携や社会資源の活用にも積極的に関わり、障害者が地域で安心して暮らし、働くことができるような仕組みづくりにも関心を寄せていただければと願っております。

さらに、介護の現場は時に困難なこともありますが、職員同士が支え合い、利用者やご家族の思いにしっかりと耳を傾けながら、より良いサービスの実現に向けて日々努力されている皆様の姿勢には、深く感謝しております。

今後も、介護福祉の専門性と人間力が障害福祉の現場で」ますます重要になることは間違いありません。利用者と共に笑い、共に悩み、共に成長していく。そんな関係性を築きながら、一人ひとりの人生を豊かにする力となっていただきたいと強く期待しております。　皆様のますますのご活躍を心より祈念申し上げます。

最北支部技術講習会を行いました

スカラモービル



令和 8 年2月14日、新庄徳洲会病院内を会場に開催。25名の参加でした。
理学療法士・作業療法士の専門職視点での講義と、福祉用具プランナーから
スカラモービル(ドイツの可搬型階段昇降機)の説明と実際に院内の階段を使って実技を行いました。
他にも職員の腰痛・負担軽減を目的とした「ノーリフティング」について学びました。
受講された方々からは、「内容が良かった」「参加してよかった」と、高い評価を
いただき、主催側としても満足度の高い研修が開催でき大変良かったと
思っています。（最北支部：森）



～介護の日イベント　各支部で開催～

庄内支部：支部役員で分担して各施設等へティッシュ配りをしました。
村山支部：文教の学祭におじゃまして介護の日を PR。会員の娘さんもボランティアとして参加！福祉学部学生さんもチラシに興味を持ってくれ、活気があって楽しい時間でした。
最北支部：徳洲会病院前でポケットティッシュ・チラシの配布を行いました
置賜支部：名入りティッシュ、クリアケースを事業所等に配布し周知活動をしました。









会員交流のひろば

「学び続けること」

皆さんの職場には外国人雇用の職員はいますか？私の職場では 4 年前から受け入れが始まりました。言葉や文化、常識の違いに惑う職員に、仕事の事はもちろんのこと、日本での生活のサポートも職場で行っています。

それぞれの性格に違いはありますが、いろんな事を覚え、ご利用者様に丁寧に対応し今では大事な戦力です。皆日本で長く働きたいと一生懸命勉強しています。業務日誌のわからない専門用語や表現について質問されることも多く、それを説明し理解したときの「わかった」の表情や笑顔はとても素敵です。私たちも教えること、うまく伝えることで振り返りと学びになっています。何でもいいんです、ちょっとしたことで良いんです。私たちも学び続けて行きたいな、と刺激をもらう毎日です。　（N・A）

【編集後記】

四半世紀ぶりにゲレンデ復帰しました。以外にイケました（喜）。昔学んだ事は身についていると実感。過去に興味を持った事をまた学ぶのも良いと思いました。ツールも進化しているし。推しの彼女は５１歳で大学院を卒業しました。尊敬しかないですが、できることからコツコツと努めたいと思う今日この頃。（E.H）

山形県介護福祉士会

LINE 一般社団法人 山形県介護福祉士会 LINE 公式アカウント

事務局：山形市小白川町 2-3-31　TEL 023-687-1516　FAX 023-615-6521
メールアドレス yaccw@vega.ocn.ne.jp　ホームページ http://kaigo-yamagata.jimdo.com/